

川越「湯遊ランド」(2018/5/25)

by 阿部 さち子

1班(9-1会)の集いで、本川越駅から徒歩で4-5分ほどの「湯遊ランド」へ行きました(参加人数:4名)。様々なお風呂と大衆演劇が楽しめ、そのうえ宿泊もできるという施設です。今日の私たちに宿泊は不要。昨年の夏(2017/8/28)に5班がここで「暑気払い」をした活動報告があり、おおよその雰囲気調べはできていました。私たちも本川越駅に午前11時に集合し、「湯遊ランド」に到着後、直ぐにお風呂に入りました。女湯男湯のいずれにも炭酸泉(檜風呂)、つぼ湯、ラジウム湯、ジャグジー風呂、高温サウナ、イベント風呂(3日替わり)、水風呂があり、更に女湯のみにナノミストサウナが付いていました。娘肌がより美しくなったところで階を上がり、観劇の小江戸座へ。



湯遊ランドの入り口



奥が男湯の入り口



奥が女湯の入り口

演劇の始まる1時までには未だ20分ほどあり、収容人数300人の部屋はまだ20-30人程度とガラガラ。舞台に近すぎず遠すぎず程よく離れた花道横の座卓テーブルにつきました。「スピーカの近くはうるさ過ぎる」との耳寄りな情報をお持ちの方がおられ、後で大いに得心いたしました。小江戸座の後方に「お食事処」があり、お昼を好きなものをめいめい

が注文し、運んでもらった料理を食べながらの観劇スタートとなりました。スタート時には70-80名になり大分にぎやかになりました。照明が落とされ、部屋が一瞬真っ暗になり、これは食事するにも大仕事だと覚悟しかけたところですが適度に明るくなり、心配無用（深く考えるまでもなく、当たり前のことでした）。

5月公演は「劇団 新（げきだん あらた）」で、二部構成。第一部は人情芝居、二部は新日本舞踊ショーで種々の見得を切る場も沢山ありました（動画撮影は禁止）。「劇団 新」の講演は、川越では1年10ヶ月ぶりとかで、かなりの長周期活動なのが意外でした。公演は、お捻りをあげる人、上手に掛け声をかける人がいて大いに盛り上がっていました。第一部のお芝居だけでなく、第2部での舞踊や歌唱も素晴らしく、役者さんのプロ芸に大拍手でした。第二部では大きな音量と派手なチカチカのステージ照明があったりして、終わった後はちょっぴり疲れましたが、とても楽しい一日でした。「湯遊ランド」を後にした帰路では、見得を切るしぐさや流し目が出ないように注意して歩いたことでした。



5月公演は「劇団 新（げきだん あらた）」
(kawagoe-yuyu.com/play/)



舞台に繋がる花道



舞台に向かって右前方座席





